平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075700221
法人名	医療法人　輝寿会
事業所名	グループホームけいせん
所在地	福岡県嘉穂郡桂川町大字土居８７５番地1
自己評価作成日	平成23年6月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　アーバン・マトリックス　評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町４-６　北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年7月28日	評価結果確定日	平成23年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

重度化しても食事を工夫したり入浴の方法、その他介助の工夫を行い、個々の状態にあわせ、なるべく長くホームでの生活が出来るよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人として、事業所として、就業環境の整備等、働きやすい職場環境作りに努めており、職員の定着率も高く、安定した状況にある。馴染みの関係の中での、その人らしさの把握や個別性を大切にした支援は、入居者、家族の大きな安心にもつながり、入居者の方々の豊かな表情からも、その実践を窺い知ることができる。特別な行事を実施するだけではなく、それぞれの方にとっての日常の暮らしに向き合い、また、ホーム周辺の地域交流だけではなく、入居者個別の地域性にも視点を持ち、自宅所在地の老人会や民生委員等、旧知の方とのつながりを大切に支援している。センター方式も活用し、気づきや情報を職員間で共有しながら、認知症へのアプローチや心に寄り添うケアに着目した介護計画を作成し、暮らしを支える視点を明確にしている。家族や地域、行政等と連携しながら、1ユニットの特性を活かした、柔軟かつ細やかな支援が、さりげなく実践されている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	区の住民の方が、道路沿いの花壇の手入れや清掃活動をされているので、一緒に参加したり、町主催の行事に参加をしたりしている。	日々の唱和や、理念に基づいた本人本位の支援について、職員会議やカンファレンスにおいて振り返る機会も持ちながら、共有、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	継続して関わりを持てるように、区長さんや老人会などと連絡をとっている。	これまでの暮らしの継続として、個別の地域性にも視点を持ち、自宅所在地の老人会や民生委員の方々との関係性の継続に向けた支援を行っている。日常的な近隣スーパーでの買い物、隣接する協力施設の行事や地域の福祉祭りへの参加、体験学習の受け入れ等を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のなかで、話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の活動をビデオで見てもらったり、事例報告等で支援の方法を伝えている。又、評価の取り組みも報告を行い、皆さんの意見を聴いている。	全家族に開催を案内し、区長や民生委員、町役場職員、地域包括支援センター職員等の参加を得ている。災害時等の緊急時対応についての意見交換や、活動報告、事例検討等による話し合いが行われ、行政による人権研修も行われている。会議の設置要項を整備し、議事録は、外部評価結果とともに玄関に掲示されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退状況をはじめ、取り組みなど伝え、人権学習の講師の派遣などの協力も得ている。	運営推進会議には、行政担当者、及び包括支援センター職員の出席を得ており、人権学習実施についての協力を得る等、連携を深めており、顔の見える関係作りが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行いスタッフ全員が、身体拘束の内容及び弊害を理解し拘束をしないケアを行っている。	内部研修を実施し、入居者との信頼関係を大切にしたケアに取り組んでいる。家族にも身体拘束の弊害やリスクについての理解を育み、認識の共有を図りながら、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修を行っている。又、日々言動には注意を払うよう話し合っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用者は1名ある。外部研修や内部研修等を行い学習している。家族会で制度について話をしている。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、毎年、社会福祉協議会等の主催よる、制度に関する外部研修に参加し、内部での伝達研修を行っている。年3回開催される家族会の中でも説明し、パンフレット等、資料を配布しており、情報発信を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約時に重要事項説明書を渡し説明を行い、十分理解、納得の上で署名、捺印を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、意見を聴いている。面会時に話を聴いたり、苦情相談箱を設けている。	年3回、家族会を開催しており、家族同士の意見交換の場としても活用している。昨年は外部評価が免除となったため、独自に入居者･家族アンケートを実施する等、積極的に意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の申し送りの際に意見を聴いている。又、必要に応じて個人面談も行っている。	月例会議や随時のカンファレンスにおいて、職員意見の表出を求めている。業務改善に向けた活発な意見交換が行われ、マニュアル作成や見直しの際にも、職員との話し合いのもと取り組んでいる。管理者の方針として、風通しの良い職場環境作りが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	代表者は、職員の努力を認め給与面に反映されている。又、外部研修の機会もあり、資格取得に関しては協力的である。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集･採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別に関係なく採用している。園芸の得意な方、料理の得意な方、手芸の得意な方など、それぞれの能力を生かし役割を担ってもらっている。	職員の定着率は高く、安定した状況にある。法人としての採用となり、全職員の常勤採用や適切な評価、余裕ある人員配置、外部研修参加時は出勤扱いとなる等、働きやすい職場環境作りへの取り組みの成果でもある。資格取得への配慮や内部研修の講師を持ち回りで務める等、全体でのスキルアップに取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育･啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の申し送りや、会議の中で話しあったりして意識を高めていくことに努めている。町の協力を得てホーム内で講師を招いての学習も行っている。	運営推進会議の中で、町の協力を得ながら、人権研修が行われている。入居者の尊厳について、職員全員で話し合う機会を持ちながら、個人の認識の差についても考え、意識を高めていけるよう取り組みが行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画を作成し実施している。又、資格取得を促しそのための勤務調整も行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所合同での勉強会などに参加したり、他のグループホームとの交流を図り、向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問したり、見学に来ていただいたときに話を聴いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には何度も連絡を取り合って話しをしている。入居後しばらくの間は、こまめに連絡をしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人、必要であればケアマネージャーとも話をして多角的な支援を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する中で、入居者から経験や知識など学ぶところが多く共に支えあう関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には椅子やお茶などを用意しゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。又、外出など家族の協力を得ている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の了解を得、面会や訪問を支援している。かかりつけの病院を受診することで馴染みの方と会われることを喜ばれる。	個別の地域性についての視点を持ち、自宅所在地の老人会や民生委員の方々との交流や活動を継続できるよう支援している。来訪者を歓迎し、ゆっくりとした時間を過ごしてもらえるよう心掛けている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が会話の取次ぎをしたり間に入ってよい関係が築けるように努めている。又、テーブルの配置を利用者がよい関係でいられるよう配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などでサービスが終了しても、退院後のフォローなど支援を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの職員により、ご本人の思いや意向の把握に努めその人らしい生活ができるように配慮している。	安定している職員体制を活かし、馴染みの関係の中で、日常の何気ない会話や表情から、思いや意向の把握に努めている。管理者自身が地元出身者であり、地域性を共有できることで、共感や理解が深まる場面も多い。センター方式も一部活用し、生活暦やライフスタイル等の把握に努め、職員間で共有することで、介護計画作成や日々の実践へとつなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ随時情報を得ることに努め、サービスにあたっている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りの時や職員会議の時に話しあったり、情報をシートに記入し全職員が把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題が発生すれば話し合いを行っている。基本的に3ケ月に1回担当者会議、モニタリングを行い、次の介護計画へつなげている。	本人、家族の参加する担当者会議の開催や、毎月、職員全員が参加するカンファレンスの実施を通じて、現状や変化の確認を行っている。認知症や心理的なアプローチについても示された、個別性ある介護計画となっている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を記しみんなで情報を共有し、より良いサービスの提供につなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況にあわせ受診や買い物など外出の支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前から参加されていた活動は継続できるよう支援している。区長さんをはじめ地域の方の支援も得ている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する病院受診を行っている。受診の際は職員が同行している。	それぞれの入居者にとっての、個別のかかりつけ医への受診を支援し、家族、医療機関との情報の共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師及び関連事業所の看護師により支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は様子を見に行ったり、電話で情報を交換したり、主治医に退院の見通しを尋ねたり、認知症の進行防止の為にも早期退院を働きかけている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者と家族が安心できるよう、話し合いを重ねながら方針を共有している。	入居時や状況の変化に応じて、本人、家族の意向確認を行ない、グループホームとしての出来る限りの支援について説明し、方針を共有している。個別の状況に応じて、人員配置や介助の方法、調理法等を検討、工夫し、ホームでの暮らしの継続を、本人本位に支援している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者と家族が安心できるよう、話し合いを重ねながら方針を共有している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し周知している。連絡網も作成協力体制を築いている。消防設備も設置済みである。	主に夜間を想定しながら、年2回の消防訓練を実施している。また、毎年、ホーム内の電気系統についてのチェックも行われている。運営推進会議の議題として取り上げ、緊急連絡網には隣接する老人保健施設も含まれている。消防署が近接している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格や尊厳を守る対応については、日々話し合っている。排泄時や入浴時の支援のあり方についてマニュアル化し、プライバシーの確保に努めている。	排泄ケアや入浴時の支援の際には特に留意し、プライバシーへの配慮を心掛けている。それぞれの方にとっての生活習慣やペースに寄り添い、個別性の尊重した支援に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望を表現できる方についてはしっかりと聞き取っている。又、表現できにくくなっている方に関しても表情などで汲み取るようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のプログラムはあるが、本人の嗜好やペースにあわせ支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は本人の希望があればそちらへ、特に希望がなければ所定のところへ行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回は行事を入れ希望の食事にしたり楽しみのある食事を工夫している。又、テーブルを拭いてもらったり、お茶やおやつを配ってもらったり、デザートの飾りつけを職員と一緒にしたりしている。	母体法人の管理栄養士による献立を参考に、嗜好や旬の食材を取り入れている。食材や調理法に細やかな配慮や工夫を行いながら、出来る限り、形状を残し、食事を楽しむことが出来るよう、個別の対応が行われている。バイキングメニューを取り入れたり、個別の外食に出掛ける機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態にあわせ工夫をしている。水分にムセのある方にはトロミをつけたり、嚥下困難な方はペースト状にしたりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを声かけ、見守り、介助など個人に応じ支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チエック表を記入し排尿パターンの把握に努め、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表により、個別の状況やパターンの把握に努め、プライバシーに配慮しながらトイレ誘導を行っている。夜間については、個別のニーズに応じて対応を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立は管理栄養士が作成バランスのよい食事にし食事摂取量、水分摂取量の把握に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応、曜日や時間帯は決めているが、ご本人の意向を重視し支援している。	個別の入浴スケジュールはあるが、毎日入浴準備を行い、希望や状況に応じた柔軟な対応に努めている。入浴剤の工夫等、ゆっくりとした時間を過ごせるよう配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を知り、各人の夜間の睡眠を把握。個人にあわせ、午睡や休息を促している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理帳を作成し職員全員が把握できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各人の生活暦や好み、興味関心事を知り支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺や敷地内の散歩を行っている。外食や買い物など家族の協力もある。	隣接する老人保健施設（協力施設）まで続く広い駐車場やホーム周囲の田畑の畦道での散歩、近隣スーパーでの買い物等に出掛けている。個別に応じた距離感を保ちながら、さりげなく見守りを行うこともあり、状況にあわせて柔軟な対応が行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各人の力量に応じ個人で管理することを支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば又、必要なときには支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ち込んでもらったり、玄関や食堂には、季節の花を飾るなどの環境整備を行っている。	各所に椅子やソファーが設置され、その時々に応じたくつろぎの場所がある。明るく、清潔感のある共用空間は、季節の花が活けられていたり、さりげない飾り付けが行われており、落ち着いた雰囲気となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子を置いたりしている。食堂から離れ事務所前の椅子に座り一人で物思いにふけられたり、していることもある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やコップなど持ち込んでもらったり、居心地良く過ごせるよう環境づくりをしている。	各居室は開口部が大きくとられ、明るい。個別の状況に応じて、ベッドの配置等に配慮されている。使い慣れた物が持ち込まれ、安心して過ごせるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリヤフリーになっている。又、各所に手すりを設けている。センター方式シートを活用し職員はご本人のできることを把握し支援している。		